

提案書

1. 提案内容

(1) ねらい及び理由

①子どもたちに豊かな経験を

・近年保護者の就労のために保育を必要とする子どもが増え「延長保育」を多く利用することとなった。その子どもたちは小学校へ行くと留守家庭となり「児童クラブ」を利用する。つまり、子どもたちは保育園、小学校とも保育者や支援員と一緒に過ごす時間が多くなり、地域で過ごす時間はほとんどなくなる。もっと地域の人とかかわること、そして専門職以外の大人とかかわることが子どもの人格形成には必要ではないかと考える。

②地域の活性化

・地域で時間がある大人は多くいるのではないか。時間を子どものために使う、地域の大人が少しの時間子どもとかかわり機会を持つ。大人の域外にもなる。そのことが地域で育つ礎になるのではないか。

③保育者の多忙化解消

保育者は疲弊している。若い保育者の早期離職が増えている。原因は人間関係とも多忙ともいわれているが、少しでも保育自体に意欲を持つことができれば離職減少する。

多忙の原因に早番遅番などの時間差勤務がある。そのために保育者同士話し合うことが難しく、保育準備という大切なことができなくなるというのが現状である。時間差勤務をできる限りなくし、延長保育は「子育て支援」と考え「保育」と区別する。そのための人材を配置する。

(2) 具体的内容

○常勤保育者

8時～16:45 勤務

7時～15:45 勤務 (早番)

○早朝保育

常勤保育者 1名

早朝保育者 数名 (7時～8時30分)

○延長保育

延長保育者（資格保持者） 数名（15：30～

うち一人をリーダーとする

リーダー会を定期的に行う。

（中川：堀など定期的に見まわったり、指導を行う）

○一緒に遊ぶ

地域の人・シルバー人材センター・地域活動クラブ・保育学生（15：30～

- ・保育については保育者が責任をもって行う。
- ・「一緒に遊ぶ」人は遊びの提供、子どもの話を聞く、いっしょにいるなど子どもの保育というよりも子どもの気持ちを受け止めるようにする

（3）問題点

- ・保護者が担任と会う機会が少なくなるのではないかと不安になる。
→そのために常勤保育者の時間を変更し早朝保育で会える機会を作る。長い時間が必要であれば、前もって連絡し話す時間を確保する。
- ・「一緒に遊ぶ」と言っても年配の方など自分の価値観を子どもに押し付けたり、ルールを守らなかつたりするのではないか。
→あらかじめ研修をしっかりと行う。また、担任も週に1回は必ず延長保育を参観することとし、気づいたことなどお互いに話し合う場を設ける。
- 延長保育指導者を主としたリーダー会

教育委員 堀美鈴